

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈10月10日（金）放送分〉

テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は，毎月第2金曜日にお届けする，「奄美の民話や昔話」シリーズの第7回，笠利町の昔話「話^{はなし}千^{せん}両^{りょう}」です。

昔，あるところに長い間の出稼^{でかせ}ぎが終わって，三十両^たを貯めた男がいました。するとそこへ白髪頭^{しらがあたま}の老人が現れ，「男よ，一つの言葉を十両で買いなさい。わたしは三つの言葉を持っているから，三十両でそれを買いなさい。」と言いました。男は，「一つの言葉で十両というのは，恐ろしいほど高い値段だなあ。それではとても買うことはできない。」と答えました。すると老人は，「いや，お前の人生に絶対必要だから，ぜひ買いなさい。」と言いました。男は老人の気迫^{きはく}に負け，「それならば，三つの言葉を買いましょう。」と出稼^{でかせ}ぎで稼いだ三十両を泣く泣く老人に渡しました。老人は男に，「美味^{うま}い物を食べたら早くその場から立ち去れ」，「急がば回れ」，「短気^{そんき}は損気」という三つの言葉を教え，立ち去っていきました。

男が自分の家に帰ろうと山奥を歩いていると，道の途中に茶屋^{ちや}がありました。男が店の前を通りかかると，「お食事をどうぞ。」と店の人が声を掛けてきました。男は，「いや，私はお金を一銭^{いっせん}も持っていないから，食べることはできない。」と答えました。すると店の人は，「いえいえ，お金は要^いりませんから，どうぞたくさん食べていってください。」と男を店の中に招き，豪華^{まねこう}な食事を食べさせました。男はご馳走^{ちそう}を食べ終わると，老人から買った「美味い物を食べたら早くその場から立ち去れ」という言葉を思い出したので，急いでお店を出ていきました。しばらくすると店の中から鬼が出てきて，男を追いかけてきます。男が立ち寄った店は，招き入れた人間を食べてしまう「鬼の茶屋」だったのです。

男は鬼から必死に逃げようとしたましたが，鬼はどんどんと追いかけてきます。やがて男は，近道と回り道の二つの道がある場所にたどり着きました。男は老人から買った「急がば回れ」という言葉を思い出し，あえて遠い方の回り道を進んでいきました。店から男を追いかけてきた鬼は，男に少しでも早く追いつきたいので，もちろん近道を進みました。すると突然，鬼が進んでいった方に大雨が降ってきました。やがて鬼が歩いていた近道は湖^{みずうみ}のようになり，鬼は溺^{おぼ}れて死んでしまいました。

やがて男はやっとのことで自分の家にたどり着きました。男が家の勝手口^{かってぐち}の戸を静かに開けて中に入ってみると，自分の妻が見知らぬ男と一緒に寝ていました。男はそれを見て頭に血^{のほ}が上り，炊事場^{すいじば}からこっそりと包丁^{ほうちよう}を取ってきて，妻と

その男を殺してやろうと考えました。しかし、男は老人から買った最後の言葉「短気は損気」を思い出し、手に持っていた包丁を置きました。そしてまたこっそりと家から外に出て、今度は家の門から大きな声で妻の名前を呼びました。すると家の中から、「お父さんの声に似てるよ。」という子どもの声がして、^{あか}灯りを持った妻と大きくなった息子が出てきました。妻と息子は長かった出稼ぎを終えて帰ってきた夫の姿を見て、とても喜びました。妻と寝ていた男とは、長い出稼ぎの間に大きく成長した息子だったのです。男は、^{あやま}誤ってかけがえのない妻と息子を殺すところだった…、冷静になれて本当に助かった…、「短気は損気」という言葉は自分にとって三十両どころではない大きな価値があった…と思いました。

男は妻と息子に無事に会えたことをとても喜び、出稼ぎであちこちを回っていて、長い間^{おが}拝んでいなかったご先祖様の神^{せんぞ}棚^{かみだな}を拝みました。するとその神棚にはたくさんのお金が置いてありました。男は「お前たち、私がいなくてもよく働いていたのだなあ。お金もたくさん貯めたのだなあ。」と言いました。すると妻は、「いえ、この家にお金なんかは全然ありませんよ…。」と答えました。男は不思議に思い、「いや、ちゃんと神棚にお金がある、お前たちが働いて貯めたお金ではないのか。」と言いました。すると妻は、「いえ、そんなお金は知りません…。」と答えました。男がもう一度神棚に置いてあるお金を見てみると、それは自分が出稼ぎで稼いだ三十両でした。男は、「これは不思議なことがあったものだ…。」と言いました。そして、これはご先祖様が老人の姿になって現れ、自分を助けてくれたのだと男は思いました。

さて今回のお話はいかがでしたか。このお話は「話千両」と言って全国に広く伝わっている昔話の一種になります。主人公が老人から買う言葉の内容や、その後^{あと}の出来事に違いはありますが、買った言葉によって主人公が助かるところは、全国共通のようです。昔の人は、このような昔話を通じて、人生において大切な言葉や教えを伝えようとしたのでしょう。ただ、一つ目の言葉である「美味しい物を食べたら早くその場から立ち去れ」は、使い方を誤ると大変なことになりそうで心配です。あくまでも昔話の中でのこと、と考えた方がいいでしょう。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。